

高齢社会を前提とした体制づくりへー2024年度版高齢社会白書より

●約3割が65歳以上の高齢者

年齢層別の人口構成（2023年10月現在）は、15歳未満11.4%、15～64歳59.5%、65歳以上29.1%と高齢化が進んでいます。



2037年には、65歳以上の方が3人に1人を占める見込みです。

■高齢者に新しい区分や定義が必要な時代へ

65～74歳では「健康で社会活動可能な人」が大多数で、各種意識調査でも“65歳以上＝高齢者”に否定的な意見が強くなっています。

高齢社会対策大綱でも、「65歳以上を一律に高齢者とみるのは現実的でなくなりつつある」と指摘。

●高い就労意欲に、企業の受入れ体制は？

2023年の労働力人口は6,925万人。高齢者は全体の13.4%を占め、（65～69歳：394万人、70歳以上：537万人）この割合は年々増加傾向です。

現在収入ある仕事をしている60歳以上の9割が就労意欲を持っており、うち4割は“働けるうちはいつまでも働きたい”と回答しています。

従業員21人以上の企業の99.9%で65歳までの継続雇用制度（定年引上げや継続雇用制度）に対応済みですが、70歳までの受入れ体制を確保できている企業までみると3割未満に留まります。

●介護による離職は増加傾向

介護を担うのは、同居の配偶者（22.9%）、子（16.2%）、子の配偶者（5.4%）の順です。介護者の年齢は4分の3強が60歳以上で、いわゆる「老老介護」が相当数に上る実態が浮かんできます。

介護に要する時間は介護度で大きく異なり、要支援1から要介護2までは「必要なときに手をかす程度」の回答が多いのに対し、要介護3以上では「ほとんど終日」という回答が中心に。

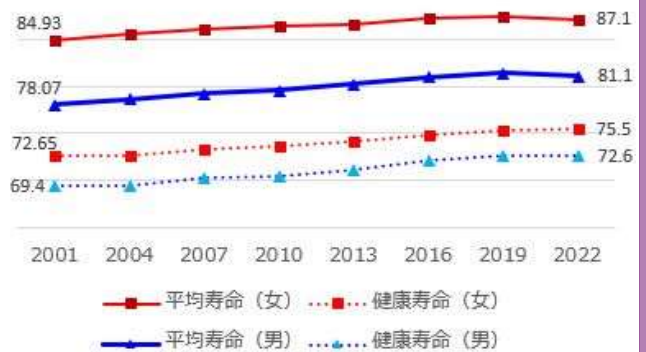
家族の介護等を理由とする離職者数は増加傾向にあり、2022年9月までの1年間では10万6,000人で、うち75%の8万人を女性が占めています。

●健康寿命は大きな伸びに！

2022年の平均寿命は女性87.1歳、男性81.1歳。一方、“健康寿命（健康上日常生活に制限のない期間）”は女性75.5歳、男性72.6歳でした。平均寿命と比べ健康寿命の伸びが大きいのが特徴です。

平均寿命との差は女性11.6年・男性8.5年で、この期間は介護や治療などを受ける期間といえます。

男女別平均寿命と健康寿命



■健康維持にはやはり運動習慣！？

65～74歳の男性38%・女性31%が、75歳以上では男性47%・女性38%が“運動習慣※あり”と回答。65歳以上の新体力カートの結果では、過去20年、男性が横ばいで、女性は向上傾向に。
※運動習慣：1回30分以上（週2回以上）の運動を1年以上継続している人を指します。



介護離職者数の推移 75%は女性



●介護施設の定員数は増加傾向に

2021年度の要支援、要介護認定者数は全国で677万人弱、10年前の1.3倍に増加しました。

白書では介護施設の定員は増加傾向としていますが、厚生労働省によれば2022年4月時点の特別養護老人ホームの待機人数は27.5万人と厳しい状況で、介護を受けたくても受けられない介護難民が増加中です。

施設の人手不足も深刻で、外国人スタッフの受入れ、介護ロボットの導入などの対策が取られていますが、問題は山積みです。

高齢者むけの介護施設の種類と定員数（10年前との比較）

施設の種類	2012年	2022年	説明
特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	475,695	592,754	要介護3以上、在宅生活が困難な方向けの公的な介護施設
グループホーム(認知症対応型共同生活介護)	166,400	213,900	65歳以上、要支援2以上の認知症者が専門なケアを受け、少人数で共同生活する施設
有料老人ホーム(介護付き/住宅型)	315,234	661,490	介護付きホームは介護度が重度でも利用可能
介護医療院	制度なし	43,824	介護度が重い方向けに、医療法人が運営する生活用施設